

市制施行80周年

# 市川市の今と昔

昭和9年に市制施行した市川市は、今年の11月3日(祝)に80周年を迎えます。昭和から平成の激動の時代の中、駅前開発や市街地の形成など、誕生してから今まで、市川市の街並みは時代にあわせて常に変わり続けてきました。その一方で、自然、文化、地域の催し、人々の営みなど、昔から変わらないものも残っています。時代にあわせて変わっていくものと、変化する時代の中にありながら変わらないもの。市川市はその両方を備えて80年を歩んできました。みなさんは変わった景色に驚きますか。それとも、変わらない景色に驚きますか。

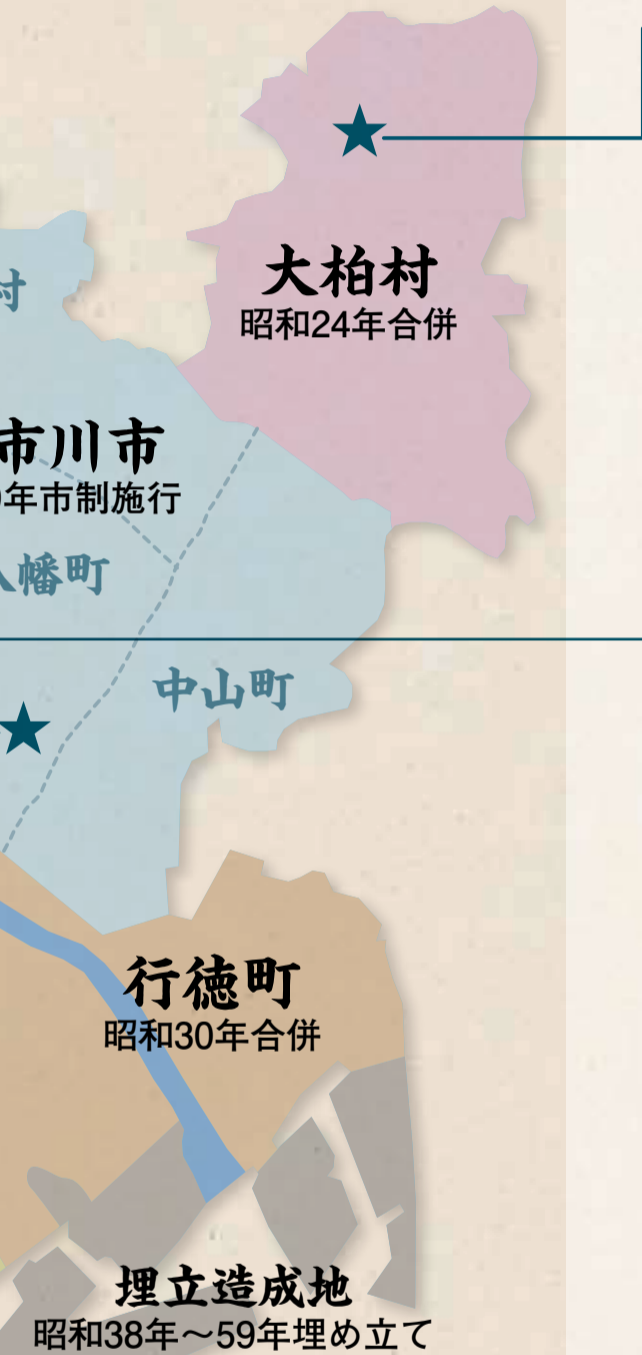
(広報広聴課)

## 梨畑



▶昭和37年ごろ

昔の写真では女性が梨ゲタを履き、現在の写真では金属製の台を持ってそれぞれ作業をしています。道具や機械、品種改良など、梨作りの技術はさまざまに進歩してきました。しかし、農家の方が上を向き、一つひとつ心を込めて梨を育てている姿は、今も昔も変わりません。



## 市川駅前



▲昭和30～40年代

JR市川駅北口のロータリーは今も昔も市民の移動の拠点です。再開発により、平成22年に駅直結のツインタワーのアイリンクがオープンしました。江戸川や市内の景色を始め、東京スカイツリーや富士山も見ることができるこの展望施設の来場者は、平成25年12月に100万人を突破しました。

### 「市川市」を知るゝ市の誕生

市川市は、昭和9年11月3日に、市川町・八幡町・中山町・国分村の3町1村が合併して誕生しました。いったいどのような形で生まれたのでしょうか。

昭和の初めごろ、県は東京東部に隣接する地域に、千葉県の玄関口としてふさわしい都市の誕生を望んでいました。そこに、市になることで都市計画や独自の事業を行なうことができると考え始めた地元町村の意向が合致し、市制施行の実現を後押しし始めます。

昭和9年に入ると、町村合併の準備が

ご高齢者に健康と安心をお届けする、  
宅配のお弁当です。

7月行事食は国産うなぎを使用した「うなぎ」です。  
宮崎県で丹精込めて育てたうなぎを  
ぶっくら、香ばしく焼き上げました。



夏バテ防止、食欲減退防止  
に効果が期待できるうなぎ。  
当店のうなぎを食べて  
厳しい夏の暑さを乗り切り  
元気に過ごしましょう!!

◆化学調味料を大幅に減らして調理しています。  
管理栄養士がメニューを作成しています。  
日替りメニューの他、丼ぶりメニューもございます。

◆安否確認OK ◆1食からお届け  
◆土日配達 ◆昼・夕2回  
◆刻み食・お粥対応 1食¥594(税込)~

高齢者専門宅配弁当(営業時間:8時~17時)  
**宅配クック 1.2.3 中山店**  
【TEL】0120-959-580  
ぜひ無料試食をお申込み下さい。

医師の同意に基づき、  
健康保険が使える、  
出張マッサージです。

【TEL】  
0120-978-531  
【営業日】  
月~土 9時~18時  
【ホームページ】  
http://www.konanss.jp/  
らいふマッサージ治療院  
市川店

難解な雨漏りを一発解決  
**雨漏り検査!**  
特殊検査液で漏水原因をピンポイント解明  
修繕費の無駄はカット  
壁、天井のしみを見つけたらまず、ご一報下さい!!  
tel 03-5875-6633

信頼と実績の  
見積り無料 株式会社サーベイ  
検査・修繕 〒124-0006 東京都葛飾区堀切 2-60-9

**家具修理 & リフォーム**

確かな技術で  
「買いたくない、直して使いたい」に  
お応えいたします!

家具の無料相談室 お気軽にお問い合わせ下さい

見積り無料

ソファ張替え	イス張替え
家具の塗り替え	家具の改造
家具の高さつめ	家具の幅つめ
家具部品取替え	桐タンス再生

家具製造販売・修理・リフォーム 木曜定休  
〒272-0801 市川市大町124-3

**赤羽根家具**  
TEL 047-337-8640

# 江戸川にかかる 京成線鉄橋



現在、アイ・リンクタワー展望施設からは、京成線鉄橋とともに、JR総武線の橋梁と市川橋が並んでいる姿を眺めることができます。これらの橋は、今も昔も東京と千葉を結ぶ架け橋になっています。



JR本八幡駅北口から千葉街道に向かう通りは、本八幡地区のメイン通りのひとつです。再開発により、平成25年にグランドターミナルタワー本八幡が完成し、昔からある商店街の歴史を受け継ぎながら、中心市街地にふさわしい魅力ある複合市街地となりました。



昭和42年ごろ▶

# 本八幡中央通り

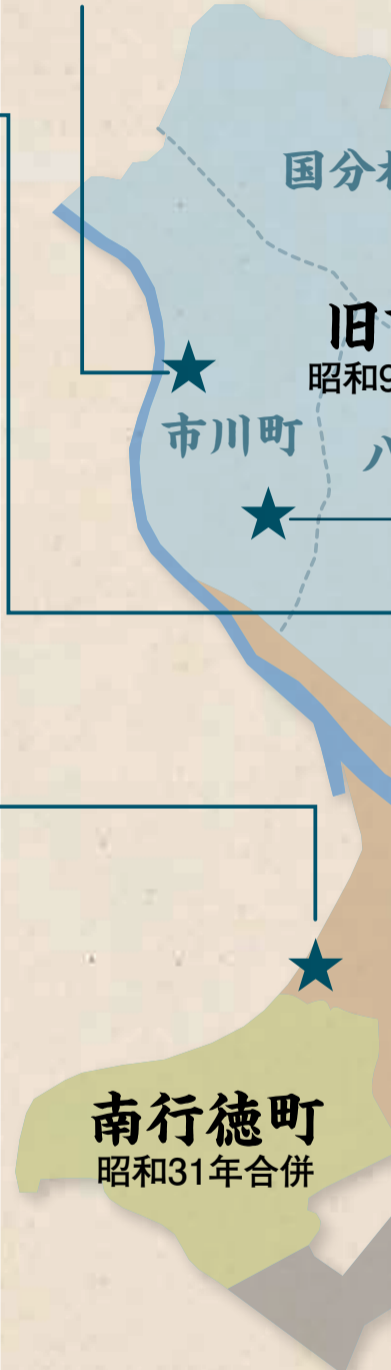


市川市指定有形文化財第1号の常夜灯は、1812年に航路安全を祈願して成田山講中が奉納したものです。かつては夜に明かりがともし、道しるべとしての役目も果たしていたようです。平成21年の常夜灯公園オープンに伴い現在の場所に設置され、川辺や海辺の街である行徳地区で、今でも、人々や船を見守っています。



▲昭和30年ごろ

# 常夜灯



いよいよ本格的に動き出します。合併に向けた準備は概ね順調に進んでいきましたが、6月になると、新しい市の名前を巡って、大きな問題が起ります。

新しい市の名前には、各町村の名前は使わないということがすでに決められていました。新市名の候補に上がっていたのは、「江東市」「東葛市」「下総市」「北総市」「総府市」の五つです。その決定に、市川町民は大反対。「総武線秋葉原駅には「両国市川・千葉方面」という案内があるなど、市川という名称はすでに一般の人々になじみ深い。上から読んでみても下から読んでみても、右からでも左からでも市川市、これほど簡潔明瞭な市名は他にない。市の名前は「市川市」にするべきだ」という理由です。他の町村は猛反発。話し合いはもつれて、一時は合併の実現も危ぶまれたほどでした。

暗礁に乗りかけた合併ですが、各町村間で何度も協議を重ね、ようやく9月に市の名称は「市川市」、八幡町の「数知らず」より東側の国道沿いに市役所を設置、各町村の要望の実現に努めるといった条件で折り合いが付き、合併への準備が再び動き始めます。

そして、11月3日、ついに市川市が誕生しました。この時の人口は4万人余り。県内では千葉市・銚子市に続き3番目の市制施行として、真の都市となるべく市川市の歩みが始まったのです。

その後、大柏村、行徳町、南行徳町と合併し、さらに埋め立てにより土地が造成され、市川市は現在の姿になりました。(協力:歴史博物館)

広告